

第1学年 生活科学習指導案

日時 平成30年11月7日(水)5校時

場所 1年生教室

児童 1年生(男15名 女15名 計30名)

指導者 室岡 純子 小林 頼子(支援)

1 単元名 にこにこ大きくせん

2 単元について

(1) 児童について

入学して8ヶ月がたち、子供たちは学校生活に慣れ、できることが増えている。給食や掃除などの当番活動や係の仕事も進んで行っている。一方で家庭では、まだ家族に依存しがちな子供が多い。アンケートによると、家族に言われなくてもランドセルの道具の準備を行っている児童は8名だが、学校に持っていく物の準備や部屋の片づけなどは、ほとんどの児童が家族にしてもらっている。お手伝いについては、夏期休業中には進んで取り組んだ児童が多かったが、毎日決まった仕事を継続して行っている児童は5名であった。

言語活動については、自分が見付けたことや感じたことを発表することに意欲的な児童が多いが、個人差があり、交流することが難しい児童もいる。本単元では、カードなどをもとに自分が見付けたことを伝え合い、班の友達と比べて発表する時間と場を設け、自分の思いや気付きを伝えたいという思いを大切にしたい。また、互いのよさを認め合う姿勢や態度を育てるとともに、一人一人の気付きの質を高めていくようにしたい。

(2) 学習材について

本単元は、自分と自分を育ててくれる家族を学習対象とする。家族がしていることやしてもらっていることを振り返り、家族のことや家庭生活における自分のこと、自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んでできるようになることを目指している。また、家庭における自分の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けて生活できるようになることを期待している。

そこで、家族や自分の生活を振り返り、家族が「にこにこ笑顔」になるために自分ができることを考え、「にこにこ大きくせん」として活動する場面を設定する。活動と交流を繰り返すことで、児童は、自分のよさや可能性に気付いたり、自分の役割を進んでしようという思いを育成していくことができると考える。

(3) 学習指導要領の指導目標及び内容

- 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。【内容(2)】
- 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。【内容(9)】

(4) 指導に当たって

初めに、自分の生活を振り返り、家でしていることを書き出してみる。その中で家族にやってもらっていることや声をかけてもらっていることに目を向け、それらが多くあることに気付くことができるようにしたい。次に、家族がにこにこ笑顔になるのはどんな時かを思い出してカードに書き聞き合うことで、家族の笑顔が見られるのはどんな時かをまとめていく。家庭でしていることや家族に関心を持ち、家族の笑顔を増やすために自分ができることをしたいという思いを大切にしながら、主体的に活動に取り組むことができるようにしたい。

「にこにこ大作戦」は、家族と相談し取り組むことを一つ決めてスタートする。各自家庭で作戦を行うが、中盤に作戦会議として3～4人のグループで様子を交流したり、活動後に発表会を開いて聞き合ったりすることを繰り返して、気付きの質を高めたい。

1回目の「にこにこ大作戦」作戦会議は、「自分のこと」と「家族のこと」に分けてグループを編成し、なるべく似た活動の子供たちがお互いに様子を聞き合うようにする。全体の発表会を終えた2回目の「にこにこ大作戦」では、「自分のこと」と「家族のこと」を意識して取り組むことができるように作戦カードを色分けする。作戦会議も、「自分のこと」と「家族のこと」どちらに取り組んでいる人も入るようにグループを編成する。また、友達のよさを見付け、自分の活動のめあての参考となるように、写真や具体物を用いて交流すると共に、「いいね」「なるほど」などの反応の言葉を例示し、見付けたよさを言葉で伝え合うことができるようにしたい。

単元の終末では、家族の方への思いを伝えたり家族の方からのメッセージを受け取ったりすることを通して、家族の笑顔を見ることができた喜びを感じたり自分の頑張りや成長に気付いたりすることができるようにしたい。

3 単元の目標と評価基準

家庭生活やそれを支える家族について調べたり尋ねたりする活動を通して、家族のために自分ができることを考え積極的に行おうとするとともに、家族への感謝の気持ちを持ち、家族の一員として自分の役割が増えたことに気付くことができる。

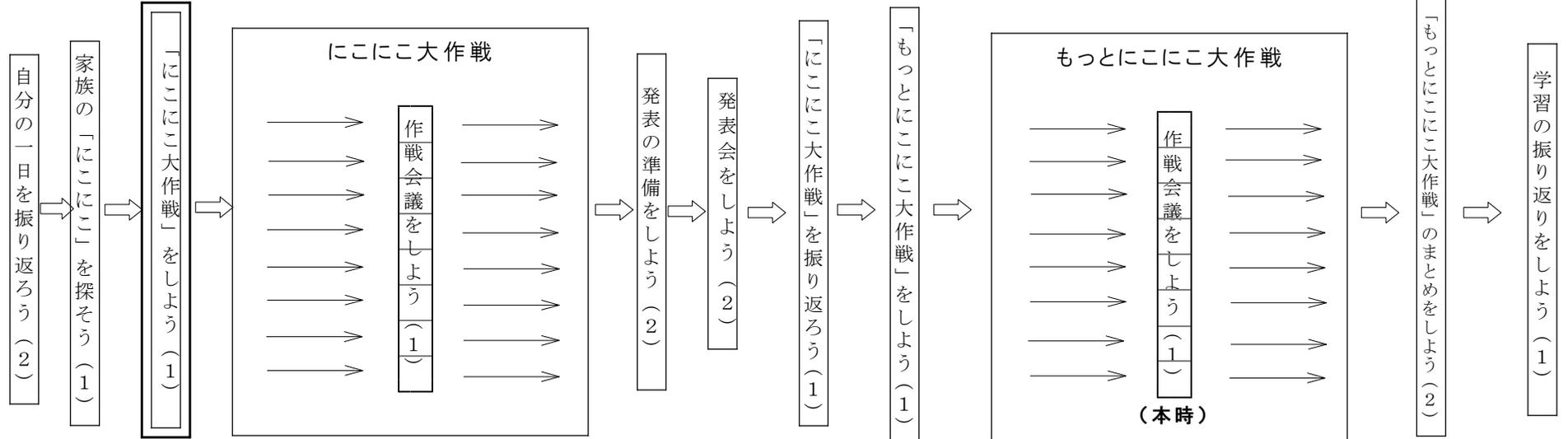
知識及び技能の習得	思考・判断力・表現力などの育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
家庭生活を支えている家族の温かさが分かり、家族の一員として自分でできることや役割が増えたことに気付いている。	家庭生活やそれを支える家族のことや、自分でできることなどについて、考えたり工夫したりして友達と伝え合っている。	家庭生活を支えている家族のことや家族のよさ、自分でできることなどに関心を持ち、家庭生活における自分の役割を積極的に行おうとしている。

4 単元構想図 次項

4 単元構想図 「にこにこ大作戦」(15時間)

【段階】	思いや願いをもつ	かかわる	振り返る
------	----------	------	------

【形態】	個	全	個(家庭)	グ	個(家庭)	個	全	個(家庭)	グ	個(家庭)	全	個・全
------	---	---	-------	---	-------	---	---	-------	---	-------	---	-----



時	4	5 (1)	6~7 (2)	8~9 (2)	10~11 (2)	12 (1)	13・14 (2)	15 (1)
知識・技能	○家族にしてもらっていることが多いことに気が付いている。	○友達と作戦の様子を交流し、作戦後半のめあてを考えることができる。 「～さんは、毎日続けていいね。ぼくも続けて頑張るよ。」	○発表会に向けて作戦の様子や気付いたことをまとめることができる。	○自分や友達の活動で気付いたことを発表したり友達の気付きを聞いたりすることができる。	○家族の笑顔を見ることができた喜びを感じ、自分の頑張りに気付いている。 「にこにこ笑顔が見られて嬉しいな」 ○「もつとにこにこ大作戦」のレベルアップについて考えることができる。	○友達の作戦のよさを見付けると共に、自分の後半のめあてを考えることができる。 「家族のにこにこ笑顔が見られるように言われる前にやることを頑張ろう。」	○「もつとにこにこ大作戦」を通して、自分でできたことや自分の役割、家族の温かさに気付いている。 「1回目よりもできるようになったことが増えたよ。」 「家族のニコニコもたくさん見られて嬉しいな。」	○「にこにこ大作戦」の感想や家族への思いを手紙に表して伝えることができる。
思考力・判断力・表現力等	○家族が笑顔になるためにできることを考えている。 「明日の道具を揃えることを自分でやりたいな。」 「靴を揃えたら家族が笑顔になれるかな。」	○グループの友達の作戦の様子を聞き合い、友達の作戦のよさを見付けている。 「～さんは、宿題が終わったらすぐに道具を揃えているのいいね。」	○みんなに伝わるように発表の方法を考えてまとめている。 「タオルのたたみ方を実際にやってみせよう。」	○作戦の手順や工夫、感想や家族の様子等を、絵や具体物を用いて伝えている。	○家族がもっと笑顔になるための作戦を考えている。 「自分の服だけでなく、家族の服もたたもう。」 「ランドセルの道具揃えと一緒に持ち物の準備もしよう。」	○グループの友達に作戦の様子を工夫して教えたり、友達の様子を聞いて作戦のよさを見付けたりしている。 「～さんは、自分のことも家族のこともどちらも取り組んでいて、いいね。」	○作戦を通して自分や友達の成長やよさについて振り返り、カードに書いている。	○作戦を通して感じたことを家族への手紙に表している。
学びに向かう力・人間性	○家族がにこにこ笑顔になってくれるように取り組みたいという思いをもっている。 「家族のにこにこをもっと見れるように、頑張りたいな。」	○自分でできることを考え、作戦に意欲的に取り組んでいる。	○自分の気付きが伝わるようにまとめたり発表したりしようとしている。	○友達の発表を、自分と比べたりよさを見付けたりしながら聞こうとしている。 「洗濯物たたみもやってみよう。」	○家族がもっと笑顔になるように「にこにこ大作戦」のレベルアップの方法を考えようとしている。	○自分でできることを考え、作戦に意欲的に取り組んでいる。 ○作戦会議で、友達の作戦のよさを見付けようとしている。	○自分でできることを続けようとしている。 「これからもお家の方の笑顔が見られるように、自分のことや手伝いを続けたいな。」	○お家の方へ思いを手紙で伝えようとしている。

支援	<ul style="list-style-type: none"> 家族の笑顔が見られる時を思い出してカードに書き聞かせることで、家族の笑顔をもっと見たいという気持ちをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作戦カードを用いる。 作戦会議のグループは、「自分のこと」と「家族のこと」に分け、3～4人で編成する。 よさを伝える反応の仕方を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方を示す。 聞く人に伝わるような発表の方法として、絵と文や具体物を使ってよいことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1人の発表を全員で聞くことで、自分も「できそう」「やってみよう」という思いをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> レベルアップとして、カードの枚数を増やすことや、「自分のこと」「家族のこと」を意識して取り組むことがあることを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作戦カードは、「自分のこと」と「家族のこと」で色を分けて作成する。 作戦会議のグループは、「自分のこと」「家族のこと」のどちらも入るように編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> できるようになったこと、嬉しかったこと等の視点を与えてまとめ、頑張りを価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族からのメッセージを読むことで、自分の成長を自覚できるようにする。
----	--	---	---	--	--	---	---	--

5 本時の指導（本時12／15時間）

（1）目標

班の友達と「もっとにこにこ大作戦」の活動の様子を交流してよさを見付けると共に、作戦後半のめあてをもつことができる。

本時について

2回目の「もっとにこにこ大作戦」でそれぞれが取り組んでいることを、カードや具体物を用いてグループの友達に教えることができるようにする。また、班の友達のよさを見付けて伝え合い、作戦後半も頑張ろうとする気持ちをもつことができるようにする。

（2）展開

	学習過程	児童の学習活動	教師の支援
導入 5分	1 本時の学習のめあてを確認する。	・「もっとにこにこ大作戦」への取り組み5日目であることと、本時のめあてを確かめる。	・グループの友達と作戦の様子を交流してよさを見付け、自分の作戦後半について考えることを確かめ、本時の課題につなげる。
	「もっとにこにこ大きくせん」 さくせんかいぎをしよう。		
展 開 30分	2 活動の見通しをもつ。 3 グループで聞き合う。 4 「もっとにこにこ大作戦」後半のめあてを考える。	・交流の進め方を確認する。 【教えるとき】 ・カードや具体物を使いながら、取り組んでいることと工夫していることを教える。 【聞くとき】 ・反応しながら聞く。 ・「いいね」「すごいね」と思うことを見付けながら聞く。	・教えるときと聞くときの視点を確かめる。 ・グループは、取り組んでいることが「自分のこと」「お手伝い」のどちらも入るようにする。 ・具体物を使って説明する場を設定しておく。 ・反応と伝え方の例を示しておく。
終 末 10分	5 本時の学習の振り返りをする。	・本時の活動を振り返り、カードに記入する。 ①友達の活動への取り組みのよさを見付けることができたか。 ②にこにこ大作戦後半のめあてを考えることができたか。	・交流したことで、作戦後半について考えることができたことを価値付ける。 ・次時は、作戦を終えて頑張ったことや嬉しかったことなどをまとめることを確かめる。

（3）評価規準

ねらいを達成している児童	努力を要する児童への支援	評価方法
「もっとにこにこ大作戦」の様子について交流し、作戦後半の意欲をもつことができる。	友達の作戦の内容や工夫に着目し、友達の作戦の様子やお家の方からのメッセージを見て、頑張りたいことを見付けることができるようにする。	・振り返りへの記述 ・つぶやきや発言